



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：イスラエル軍におけるシリア情勢分析

(5日付現地各紙)

5日付現地各紙は、イスラエル国防軍（IDF）情報責任者のコハヴィ少将によるクネセット外交防衛委員会における発言について報じている。

1. アサド体制は安定しており、デモ隊がダマスカスカアレppoに到達するまでは維持されるであろう。アサド・シリア大統領は、軍事的対応だけでは問題を解決できないことを承知しているが故に改革を進めており、我々は、アサド大統領が賃金、交付金、さらなる雇用拡大について改善しようとしている改革パッケージを過小評価してはならない。
2. アサド大統領の軍、とりわけ、アラウィー派の高官は、今のところ忠誠を保っているが、これは、兵士らが、デモ参加者の鎮圧を大規模な暴動を阻止しアラウィー派によるシリア支配を維持するための適切な手段であると信じているからである。軍部からの任務放棄ではなく、これまでのところ、20～30人の士官と数百人の兵士が離脱しただけである。
3. シリアの抗議行動は「伝染性」であり、人々は一層大胆になり、体制はさらに消極的になっていく。もし、シリアで民主主義が出現するとすれば、数年を要するとともに、おそらく「軽度の民主主義」となるだろう。
4. 体制における顕著な変化は、過激主義者の枢軸を著しく弱体化させる。イランとヒズブッラーはアサド大統領の転落を懸念しており、暴動を諫めるために深く関与しているが、イランの影響は武力を伴うものではなく、情報、技術的支援、装備の伝達を通して行われている。イランとヒズブッラーがシリアを支援しようとするモチベーションは、反動に対する深刻な懸念と、主としてシリアとのパートナーシップを失うこと、さらに、自らの領域にまで影響する可能性に起因している。シリアに対する影響力を失うことを懸念するロシアは、アサド体制の安定化を試みている。
5. 暴動の初期、シリア国内で押し入った2台のバスによって軽火器が盗まれたが、シリアの武器がヒズブッラーか、シリア国内の他のエージェントに流出していることを懸念している（注：一部、現地ヘブライ語紙には、VXガスやサリンなどの流出を報じるものもある）。